

# 田中信弘教授 略歴及び主要研究業績

## 略歴

- 1960 (昭和35) 年 8月生 (東京都)
- 1984 (昭和59) 年 3月 慶應義塾大学商学部卒業
- 1992 (平成4) 年 4月 杏林大学社会科学部 (現総合政策学部、以下同) 助手
- 1993 (平成5) 年 3月 慶應義塾大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得
- 1994 (平成6) 年 4月 社会科学部専任講師
- 1997 (平成9) 年 4月 社会科学部助教授
- 2004 (平成16) 年 4月 総合政策学部・大学院国際協力研究科教授

## 主要研究業績

### I. 学会発表・講演

- ・「日本企業における組織信頼とガバナンス問題」日本経営教育学会第30回記念関東部会 (会場：横浜市立大学)、1997年7月。
- ・「日本のコーポレート・ガバナンスにおける近年の変質とその基底」日本経営教育学会第38回全国大会 (会場：四日市大学)、1998年10月。
- ・「ガバナンス概念とコーポレート・ガバナンス論の検討」日本経営教育学会第48回全国大会・統一論題報告 (会場：中京大学)、2003年10月。
- ・「ガバナンス概念は整理・統合できるか—多様なガバナンス論の検討から」日本経営教育学会関東部会 (会場：杏林大学)、2008年5月。
- ・「コーポレート・ガバナンスにおけるエンフォースメントについて—「遵守か説明か」原則に注目して」日本経営学会全国大会 (会場：九州産業大学)、2009年9月。
- ・「EUにおけるコーポレート・ガバナンスとCSRの動向について」日本経営教育学会関東部会 (会場：千葉商科大学)、2011年5月。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメント—」日本マネジメント学会関東部会、2012年12月 (会場：成城大学)。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメント—国連グローバル・コンパクトとOECD多国籍企業ガイドラインを中心に—」日本経営倫理学会第90回CSR研究部会 (会場：電力中央研究所)、2013年2月。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメント—ISO26000とGRIガイドラインを中心に」日本経営行動研究学会プロジェクト研究部会 (会場：創価大学)、2013年8月。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格の有効性—エンフォースメントの類型をふまえて

- て」日本経営倫理学会研究交流例会（会場：社団法人経営倫理実践研究センター）、2014年1月。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格の有効性—ISO26000による情報開示とエンゲージメント」日本経営学会関東部会報告（会場：千葉商大）、2014年5月。
  - ・「CSR国際規格と日本企業の対応～非財務情報開示と企業実践」日本経営学会関東部会シンポジウム（CSRの新課題への対応—非財務情報開示と企業実践）（会場：明治大学）、2014年12月。
  - ・「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメントとその有効性」日本経営学会全国大会（会場：熊本学園大学）、2015年9月。
  - ・“Global Enterprise Responses to Evolving CSR Agendas –Comparative analysis Between Thailand and Japan”, The 1st International Conference on “Business Management and Social Sciences: Toward ASEAN Integration 2015” November 5th, 2015. Khon Kaen University, Thailand
  - ・「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメントとその有効性—CDPによるエンフォースメントとエンゲージメントを手掛かりとして」日本経営倫理研究学会全国大会（会場：東北大学）、2016年6月。
  - ・「イギリスにおけるコーポレート・ガバナンスの新動向—法制度の変化と機関投資家の行動に注目して」経営行動研究学会・統一論題報告（会場：創価大学）、2017年9月7日。
  - ・「経営学の教科書について考える—経営学教科書の編著者の経験から」（ワークショップ経営学教育をめぐる交流—経営学のテキストを中心に）日本経営学会全国大会（会場：慶應義塾大学）、2020年9月。

## II. 論文

- ・「M&Aと日本企業の特質—日本の株式所有状況と企業経営の影響」『三田商学研究』第34巻第4号（1991年）。
- ・「ベンチャー・キャピタルの投資と企業評価」『三田商学研究』第35巻第5号（1992年）。
- ・「『企業集団』における企業間協調」『杏林社会科学 研究』第10巻第2号（1994年）。
- ・「分業生産方式の形成にみる日本企業の特質」『杏林社会科学 研究』第11巻第1号（1995年）。
- ・「工職間関係の転換にみる日本企業の特質」『杏林社会科学 研究』第11巻第3号（1995年）。
- ・「日本企業における信頼を基礎とするガバナンス—その形成に関する一考察」『杏林社会科学 研究』第12巻第4号（1997年）。
- ・「組織信頼のパースペクティブとガバナンス問題」『杏林社会科学 研究』第14巻第1号（1998年）。

- ・「日本の企業ガバナンスにおける制度変化と組織同型化」『杏林社会科学研究』第16巻第1号（2000年）。
- ・「コーポレート・ガバナンスの概念形成に関する検討」『杏林社会科学研究』第17巻第4号（2002年）。
- ・「日本のコーポレート・ガバナンスにおけるハイブリット化」『三田商学研究』第45巻第5号（2002年）。
- ・「ヒューマン・スキルズ・インベントリーの研究」（慶應義塾大学名誉教授・立正大学教授藤森三男との共同執筆）『杏林社会科学研究』第16巻第3号（2000年）。
- ・「日本企業のガバナンス改革とその多様性」『杏林社会科学研究』第19巻第4号（2004年）。
- ・「ガバナンス概念は整理・統合できるのか—多様なガバナンス論の検討から」『国家と市場をめぐるガバナンスの検討』No.2、日本大学法学部政経研究所（2009年3月）。
- ・「EUにおける在欧日系ビジネス協議会（JBCE）のロビー活動—CSR委員会の活動を中心に」『杏林社会科学研究』第31巻4号（2016年）。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメントとその有効性—ステークホルダー・エンゲージメントの課題把握に向けて」『経営学論集』日本経営学会（<http://www.jaba.jp/category/select/pid/10634>）、2016年。
- ・「ソフトローとしてのCSR国際規格の有効性に関する分析フレームワーク試論—CDPによるエンフォースメントとエンゲージメントの検討」『日本経営倫理学会誌』第24号（2017年）。
- ・「機関投資家のESG投資と集团的エンゲージメント—近年のトレンドと『コロナ危機』をめぐる対応」『杏林社会科学研究』第36巻第1、2号（2020年）。

（資料・その他）

- ・『経営戦略の実証的研究』（第5章「戦略マネジメントの指針」を執筆）東京都商工指導所、1992年3月。
- ・「日本企業の協調的特質とその形成」『JICPAジャーナル』第一法規、1996年4月号。
- ・「公認会計士試験第2次試験・経営学講座」『会計人コース』中央経済社（1994年～1996年）。
- ・「アジア企業研究 韓国自動車業界の現状」『杏林社会科学研究』第12巻第3号（1996年）。
- ・「アジア企業研究 韓国企業の世界戦略」『杏林社会科学研究』第12巻第4号（1997年）。
- ・「アジア企業研究 韓国企業の新規事業・人材戦略」『杏林社会科学研究』第13巻第3号（1997年）。
- ・「物流子会社の人材情報管理法」（藤森三男との共著）『ロジスティック・ビジネス』2001年3月号。

Ⅲ. 著書 (監修、分担執筆、翻訳、電子メディアを含む)

- ・『新次元の経営学』(第2章「社会のなかの企業」を執筆)、文眞堂、1994年。
- ・『革新する経営学』(第15章「財務のグローバル化」を執筆) 同文館、1995年。
- ・『始動するアジア企業の経営革新』(第2章「韓国企業の所有構造と資金調達」を執筆) 税務経理協会、1997年。
- ・『グローバル時代の企業と社会』(第4章「コーポレート・ガバナンスの国際比較」を執筆) ミネルヴァ書房、2002年。
- ・『政策とガバナンス』(共編、第5章「コーポレート・ガバナンスにおける『監視』と『信頼』」を執筆) 東海大学出版会、2003年。
- ・『ガバナンスの課題』(第8章「企業集団とコーポレート・ガバナンス」を執筆) 東海大学出版会、2005年。
- ・『公私領域のガバナンス』(共編、第5章「コーポレート・ガバナンス論の系譜」を執筆) 東海大学出版会、2006年。
- ・『現代経営管理論の基礎』(第6章「組織デザインと調整、統合」を執筆) 学文社、2007年。
- ・『経営学総論』(第1章「現代企業の諸形態」を執筆) 学文社、2008年。
- ・『よくわかる経営戦略論』(第8章「M&A戦略と企業価値」を執筆) ミネルヴァ書房、2010年。
- ・『コーポレート・ガバナンスと企業倫理の国際比較』(第5章「イギリスのコーポレート・ガバナンス」を執筆) ミネルヴァ書房、2010年。
- ・『現代CSR経営要論』(共編、第1章「企業の社会的責任」と第2章「企業の社会的責任論」を執筆) 創成社、2011年。
- ・『新経営学の構図』(第4章「企業の環境」を執筆) 学文社、2011年。
- ・『現代企業要論』(第7章「ドイツの企業統治と会社機関」を執筆) 創成社、2011年。
- ・『ストーリーで学ぶマネジメントー経営管理「超」入門』(共編、1-1、1-5、4-6を執筆) 文眞堂、2012年。
- ・『国際関係の論点ーグローバル・ガバナンスの視点から』(「EUにおけるコーポレート・ガバナンスー『遵守か説明か』原則を中心に」を執筆) 文眞堂、2015年。
- ・『三方よしに学ぶ、人に好かれる会社』(「三方よしのためのCSR報告」を執筆) サンライズ出版、2015年。
- ・『経営学者の名言』(「E, フリーマン」「ロナルド, ドーア」を執筆) 創成社、2015年。
- ・『よくわかる企業論(第2版)』(「CSRをめぐる理解(理論編)〈実態編〉」を執筆) ミネルヴァ書房、2016年。
- ・『新版・ストーリーで学ぶマネジメントー組織・社会編』(共編、1-1、3-6、本を読む1、4を執筆) 文眞堂、2019年。
- ・『CSR経営要論(改訂版)』(共編、第1章～第3章を執筆) 創成社、2019年。

(その他著書)

- ・『経営学 頻出問題演習』(共編、第4章「経営と財務」、第5章「企業統治」を執筆) 中央経済社、1998年。
- ・『入門 社会の仕組み―複雑な世の中を理解するための道具箱』(分担執筆) 丸善、2004年。

(事典等)

- ・『経営教育事典』学文社、2006年。
- ・『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社、2005年。

#### IV. その他

(科研費)

- ・科学研究費補助金(基盤研究(C)) 研究代表者(2015年～2018年)  
「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメントとその有効性」
- ・科学研究費補助金(基盤研究(C)) 研究代表者(2010年～2013年)  
「コーポレート・ガバナンスにおけるソフトローのエンフォースメントについての研究」

(学会)

- ・日本経営学会(幹事、財政改革検討委員会委員)、日本マネジメント学会理事など。
- ・日本経営学会、日本マネジメント学会、司会、コメンテーター、討論者など。
- ・「日本経営学会における経営学教育の振興―総括コメント」(ワークショップ経営学教育をめぐる交流)、日本経営学会全国大会(会場:同志社大学)2021年9月。
- ・IFSAM2014 World Congress in Tokyo セッションチェア、2014年9月。

(受託研究・共同研究ほか)

- ・日本IBMロジスティックス株式会社からの受託研究(2000年4月～2002年3月)  
テーマ:「ヒューマンスキルズ・インベントリーの研究」(共同代表)
- ・日興キャピタル株式会社からの受託研究(1992年度～1993年度)  
テーマ:「ベンチャー・キャピタルの投資と倒産管理」(共同分担)
- ・東京都商工指導所・日本総合研究所におけるプロジェクト(1991年度)  
テーマ:「経営戦略の実証的研究」(共同分担)
- ・電力中央研究所・日本総合研究所におけるプロジェクト(1990年度)  
テーマ:「企業経営の新しい見方」(共同分担)

(その他)

- ・産経新聞記事コメント「大和信金 犯罪率連動の定期預金 実益兼ね、専門家も注目」  
2014年4月24日。

## 杏林社会科学 研究

- ・杏林大学主催公開シンポジウム『感染症対策と私たちの暮らし』指定討論者「企業の協力をどのように引き出すか？」2017年10月8日。
- ・JMOOC 講座撮影、反転授業、2017年～2018年。